

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス てとと		令和 8年 3月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		十分なスペースが確保されている。	急に動く方もいるため安全の確保に努める
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		配置基準に沿っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		子どもの状況や活動に応じて場所を変えて対応している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日清掃し、消毒も行っている。	様々な活動を広げていくために配置などは検討していきたい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		子どもの状況に応じて別室での対応もできるようにしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		職員が参加して行うことが出来ている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表を見て実際の支援の改善を行うことが出来ている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		月1で職員会議を行ったり、定期的に個人面談を行ったりしている。	さらにほかのスタッフ同士が意見できる形を考えていきたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	未実施	今後第三者委員会も検討し質の向上を目指したい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		HUG研修に参加している。	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページにて公表している。	内容は今後修正しながら個々の利用者に対応できるものにしていきたい。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		保護者や本人と話した内容をもとに放課後等デイサービス計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援に関わっている職員とも情報を共有しながら計画している。	日々の支援の中でも共通理解を深めることでさらなる利用者への支援の改善をめざしていきたい。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		計画書作成後は、会議にて情報共有している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		ソフトを導入しツールを使いアセスメントなど行っている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		項目ごとに具体的に内容を記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員間で話し合いをして決めている。チームで立案し、より良いプログラムにしていっている。	まだ特定のスタッフが中心での立案となっているため会議等を活用して広げていきたい。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		1週間ごとのプログラムを考えている。	いる。集団のプログラムもやっているが参加が難しい方が複数いたりさらに高いレベルの取り組みが求められる方のためバリエーションをふやしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		状況に応じて個別や集団で支援が行われている。	今後も状況に応じて支援を行ってきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		職員間でその日の流れの確認を行っている。役割分担を話し合うことで、スムーズに支援を行うことができている。	多機能型事業所のため各事業所によって行っている同じ内容を検討するなどの機会をつくっている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		サービス提供記録を書く際や、朝礼時に振り返りや共有を行っている。	必要に応じて検討を行えるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		サービス提供記録に活動内容だけでなく、子どもとの会話や活動中の様子まで協力して記録できている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的にモニタリングがあり、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8		個別支援計画書など目標をもとに活動計画を組んでいる。	地域交流に関しては今後少しずつ広げていきたいと思っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	活動の中で子ども自身が選択できるような声掛けを心がけている。	職員の指示を聞いて行動することが多い。自己決定する力を育てる工夫をもっとしていきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		各専門職からの意見も聞き支援ができるようにしている。	選択肢を増やす、ルールとセットで学べるような工夫を検討していきたい
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		必要に応じて関係連携を行い支援が出来る。	医療機関との連携は地域課題として考えられる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		必要に応じて、学校との情報共有を行うことが出来る。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		移行支援として特に情報共有を行う場合がある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		報告書での情報共有ができている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		外部の研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1		放課後児童クラブとのかかわりを増やしていけるように検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		積極的に参加できている。	要請があれば積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		モニタリング時だけでなく、送迎時なども利用し、情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	イノチグラスの体験会など行っている。	今後定期的に研修会など行う予定。家庭によっては家族が希望していないがした方がいいと判断した場合は連絡などを多くとるなどしている。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に行っている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		保護者や本人の意向を踏まえて計画を行っている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		確認後、同意のサインをもらっている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		必要に応じて実施できている。		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8	未実施	兄弟間で交流する機会はあるが、保護者同士の交流の機会はない。今後は公開療育など行い療育の目的などを伝える時間を設ける。そういうニーズがあった場合行っていきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			緊急な場合は保護者連絡を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			ホームページやインスタ等SNSを利用して、情報の発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			視覚的に配慮したり、絵カードなど必要に応じて行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2			定期的に地域との交流を実施する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			定期的に訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			BCPを作成しており、訓練等も実施している。	今後様々なことを想定した訓練を検討し実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			事前に聴取し、職員間で共有している。	研修等でてんかんなどの学習を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			安全計画を提示している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			安全計画を提示している。	積極的な周知は行っていなかったため面談時等で説明をしていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			ヒヤリハット報告書にて共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			定期的に職員研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			支援会議で情報の共有を行うことが出来ている。	制限・禁止など身体拘束の適正化を図る会議を行っている。	